萌　木　　12月

～自尊・立志・感動～

調布市立第七中学校
校　長　　山田　　勝
令和７年１２月１２日発行

情けは人の為ならず

校長　山田　勝

昔からのことわざに「情けは人の為ならず」というものがあります。これは、「情けを人にかけることはその人のためにならないからやらないほうが良い」ということではなく、「人にかけた情けは巡り巡って自分に返ってくるものだから人には親切に接しましょう」という意味のことわざです。

私たちは社会生活の中で様々な人と関わりながら生きており、学校生活もその一部です。その関わりをどのように持とうとするかで、私たちの成長の度合いや学びの深まりは変わってくることになるのでは、と解釈することもできます。１１月は、デフリンピック競技観戦や調布特別支援学校との交流など、その考えを深める機会ととらえられる場面も多くありました。それらの経験も踏まえ、「いのちと心の教育月間」で今月の全校朝礼では次のような話をしました。

12 月に入り今日からは全学年三者面談も始まります。改めて自分自身を見つめ、それぞれが自分の将来を考えることが多くなる時期でもあります。「自分」を考える時間はとても大切です。進路のことも、学校生活のことも自分を見つめる、考える、という本質を見失わずに考えを進めてください。

さて、先日２年生はデフリンピックの競技観戦、１年生は調布特別支援学校との交流会という機会がありました。2，3年生も１年生の時に支援学校の皆さんと交流したことを覚えていると思います。障害を持っていて特別な支援を受けている方の頑張りや取り組みに触れてどのようなことを学びましたか。

自分とは違うこと、自分と変わらないこと。耳が聞こえない、感情を自分のようにはコントロールできない、その中で自分のできることを見つめ取り組み頑張っている姿から何を感じ取りましたか。

支援学校との交流では今年も合唱コンクールの歌声を披露しました。１組の発表の時、司会の生徒さんが皆さんの前で飛び跳ねていましたね。皆さんとの交流がとてもうれしかったからだと思います。

デフリンピックの選手も司会の生徒さんも、自分のできることできないことを把握し、成長に向けて頑張っている、そのことから私たちも学ぶことがあるのではないでしょうか。

相手のことをわかってその気持ちを大切にすることなど、考えを深める機会としてほしいと思います。

成長を支えることは成長に向けて頑張っている人の思いを尊重し応援することです。自分たちの場面に置き換えると、そのことは普段接している仲間の心情を尊重し、大切に見守ることになります。仲の良い友達がいて考えもなく同じ学校を志望することはそういうことではありません。仲のいい友達との待ち合わせを大事にして一緒に遅刻することも、相手を思いやりまた自分を大事にしていることではありません。自分はどうなのか、どうするべきなのかをしっかり考えられていません。それぞれの個性・環境を認め自分に合った目標を持てることを尊重して応援することが大切なことです。

相手の個性・環境を尊重し認める姿勢は、結局自分を見つめ自分が成長することにつながります。一人一人違う、でもそれを尊重し大切にする、その姿勢を持ってください。人とは違う自分、自分とは違いのある周りの人。それぞれを認める姿勢が一つ一つの大切な命を守り尊重することなのです。自分を見つめる時期、大事にしてください。